

横芝の碑

(その九十六・上)

坂田城下に点在する

横向の三猿と昔の道筋

旧大総村には、随分沢山の庚申様が建っています。中でも、地元の人々が「金比羅参道」と呼んでいる、於幾の栗島橋から、於幾、曾根合、寺方、坂田へかけての沿道には、既にご紹介している、於幾の水神様の前と、栗島神社境内に建っている庚申様の他に、曾根合と、坂田に一体づつ、都合四体の庚申様が建っているのです。

栗島神社境内の庚申様をご紹介申上げた時、青面金剛の付属図柄である三猿の両側の猿が横を向いている姿が珍しい、とお伝えしましたが、坂田と曾根合の庚申様の三猿もやはり両側の猿が横を向いているのです。石工の好みなのか、図柄師によるものか、或いは信仰によるものかは分りませんが、とにかく、水神様の前に建っている庚申様の他は、総て共通した図柄を持っていますが、それにはそれなりの理由があるのだと思います。ところで、水神様の前に建っている庚申様についてですが、建立された年や、建立者が土屋某とい

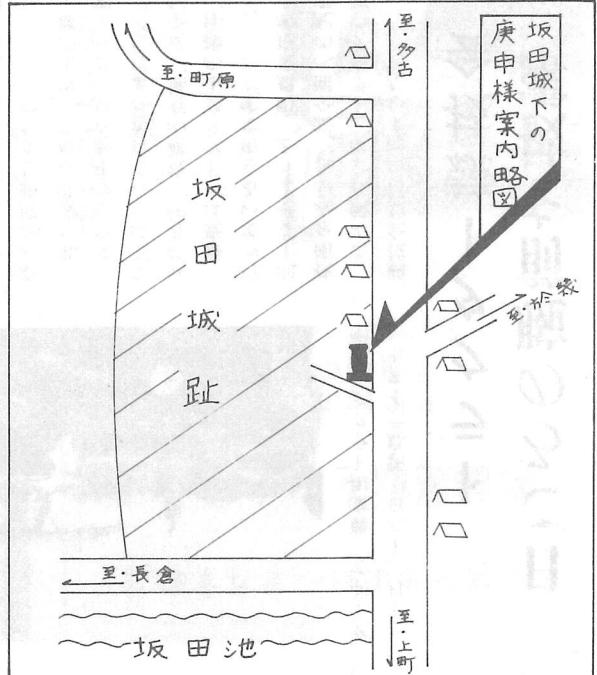
う個人であること等から、「凶作に遭った人々に代って、土屋某という庄屋が名主が自費で建立したのか、その人が何か祈願が叶ったお札に建立したものではないか」と申上げてありますが、他の三体の庚申様と、異った形であることや、また、信仰の様子も変わっていること等から考えて見ますと、どうも、於幾村の農家が凶作のために……云々の推定は該当しない様に思われて来ました。

大総地区の庚申様は、総てと言っていい位、これ、といったご利益の言い伝えがありません。無病息災、家内安全を祈願する、といった一般の神仏と同じなのです。(他の庚申様は、いぼとり、目や耳の病を医す等の霊験を伝えるものが多い)そうした中で、水神様の前に建っている庚申様だけが耳の病に霊験があり、そのお札詣りには甘酒を供える、という風習が今も残っているということですから、土屋某という実力者が、本人または身内の者の眼病平癒念願成

就のお札詣り等で建立したのではないか、という見方が一層つよくなって来ました。

さて、坂田の庚申様ですが、栗島橋から於幾の集落に入った金刀比羅参道は、ここから二本に分れていて、一本は曾根合から寺方に抜け、一本は坂田の県道に突っ込んでいます。そして、その辺りから、逆斜に坂田城趾の切通しが上り勾配についていますが、その角に、切通しを見下す様な形で建っています。

正面には、青面金剛尊が両側に童子を従い、台座には三猿が並んでいる、という図柄なのですが、台座の三猿の両側の猿が横向きであることは前に述べた通りです。そして側面には、奉造立庚申待。青面金剛尊一体、数、単。成就告衆。武射郡坂田郷市場村。正徳元(一七一)辛卯(かのと、う)



九月吉日。と刻まれています。青面金剛尊一体と、主尊に帰依する心を現していることや、成就告衆と、念願成就を大勢の人々に報らせていること等にも、城下に展開された集落の結束力が伺われるような気がします。坂田の庚申様のことについて、地元の木川素男さんと石橋鉄雄さんは「庚申様は、切通しの向側に建っていました。坂田に梅林が造成されて切通しが拡張された時に、今の場所に移された。ご利益については、特別な言い伝えも信仰もない。この切通しは、もともと狭かったが、城山の台地を縦断して、振子坂の中腹辺り耳の病に霊験ありといわれる庚申様

りに通り抜けている坂田城の主要通路であった、という話であるが、廃城となつてからは、この県道が整備されるまで、地元の人々は勿論、ここを通過する人々には大切な交通路として、利用されていたと思われる」と交々話してくれました。(未完)

◎写真は、坂田郷市場村の庚申様です。向って左は急坂になり、城趾の切通しになっています。

横芝町栗山
小沢春光氏寄稿